

苫小牧東ロータリークラブ

TOMAKOMAIEAST ROTARYCLUB



～会報～ 12月号

例会日 木曜日 12:30 第2例会 18:00
 例会場:グランドホテルニュー王子 TEL 31-3111
 ホームページ: <https://toma-east-rc.com/>

「苫小牧東ロータリークラブ会長方針」

“共に考え、共に行動しよう”



～疫病予防と治療月間～

【12月プログラム予定】

- 第1例会(4日) 会員卓話 木村美砂江 会員
- 第2例会(11日) 夜間移動例会(クリスマス・忘年会)
- 第3例会(18日) 会員卓話 緒方康人 会員
- 第4例会(25日) 会員卓話 南沢雄二 会員

～今月の誕生祝い～

奥村訓代会員、山田亮太会員

～今月の創業祝い～

ニコニコの内容

財団寄付BOX 18,984円
 米山BOX 13,421円
 親睦BOX 17,422円
 ニコニコBOX 114,260円

出席数・率

12/4 22名 出席率 78.57%
 12/11 22名 出席率 81.48%
 12/18 21名 出席率 75.00%
 12/25 22名 出席率 81.48%

ニコニコ

総額 164,087円



入会予定の
長沼様 ご挨拶



【1月プログラム予定】

～職業奉仕月間～

- 第1例会(1日) 休会(定款第7条第1節)
- 第2例会(8日) 会員卓話 堀暢希 会員
- 第3例会(15日) 夜間移動例会
 会員・家族・留学生新年会
- 第4例会(22日) クラブ協議会(上期報告)
- 第5例会(29日) 職業奉仕委員長 奥野義雄 会員

担当

- 会長 南沢 雄二
- 会長エレクト 山田 亮太
- 幹事 緒方 康人
- 会計・副幹事 堀 暢希
- 会報雑誌・広報委員 鍋島 芳弘

事務局

苫小牧市表町1丁目4-5 日商連ビル5階
 月～木曜日の10:00～16:00
 Tel 0144-35-3344 Fax 0144-33-7744
 e-mail: east_toma2510@song.ocn.ne.jp
 事務局 松岡かおり

12月4日（木） 第1例会

会長挨拶（緒方幹事が代行）

はじめに、南沢会長と山田会長エレクトは「クリスマス・ドロップ作戦」に参加するため、千歳空港を出発しました。この作戦は、米空軍による世界最長の飛行人道支援ミッションであり、ロータリーの精神である「超我の奉仕」を国際的なスケールで実践するものです。お二人は支援活動に加え、グアム「平和寺」において日本国旗、献花、線香、ロウソクの寄贈を行うとともに、旧日本軍の戦没者の御霊に対し唱歌「ふるさと」を歌いながら故郷を想う気持ちをお届けする予定です。

お二人は12月8日に苫小牧へ帰着されます。今月の例会では、貴重な体験や現地の活動状況について報告をいただける見込みです。楽しみにしててください。

会員卓話：木村美砂江 会員

「毎日楽しく過ごすことの大切さ」について、私の趣味である「ひとり旅」の体験を交えながらお話しさせていただきます。私事ではございますが、子供たちも無事に独立し、ようやく自分の時間とお金を使える時期がやってまいりました。最近「自分の楽しみ」を追求することに喜びを感じております。今回は、昨年から今年にかけて訪れた各地でのエピソードをご紹介します。

昨年6月、好きな歌手のライブをきっかけに九州・山口を訪れ、レンタカーを借りて各地を巡りました。まず訪れたのは、福岡県にある「南蔵院」です。ブロンズ製としては世界最大級で長さ41メートル、重さ300トン、お釈迦様の頭にある「螺髪（らほつ）」一つが30センチ、30キロもあるというという圧倒的な大きさに驚きました。スケールの大きさに感動し、その造形の細やかさに職人のこだわりを感じました。

続いて訪れた大宰府天満宮では、北海道の生活スタイルとの違いを痛感しました。北海道はどこへ行くにも車で移動するドア・ツー・ドアの生活ですが、歴史ある神社仏閣は、駐車場から本殿までの距離が長く、「旅には体力が必要だ」と感じました。

夜の中洲では屋台を初体験しました。ラーメンと牛もつの串焼きに舌鼓を打っていたのですが、隣の外国人に英語で話しかけられ、緊張のあまり急いで食べてその場を去るといふ、ひとり旅ならではのほろ苦い、今となっては笑える経験をしました。

また、レンタカーを運転して関門橋を渡りましたが、北海道の感覚では距離が短く、地元の白鳥大橋を渡るような手軽さに驚きました。下関の唐戸市場ではあえて北海道産のウニを注文し、「ウニは北海道が一番おいしい」と再確認しました。地元の味の素晴らしさを、遠く離れた旅先で改めて教えられた瞬間でした。

このほかに、大ファンである「サンドウィッチマン」のライブを見るため、チケットが取れない北海道を飛び出し、大阪や仙台まで遠征しました。各地の賑わいや街づくりを観察するのも旅の醍醐味です。また、最近、バイクツーリングも再開し、厚真町へスープカレーを食べに行くなど、道内でのアクティブな活動も続けています。

最後になりますが、「これからも自由な時間を大切にして趣味の幅をさらに広げ、一回一回の経験を大切にしていきたい」、そんな想いを強くした一年でした。皆様も、ぜひご自身の『楽しい』を見つけ、豊かな毎日をご過ごされることを願っております。



12月11日(木) 第2例会 夜間移動例会

～クリスマス・忘年会～

会長挨拶

雪の降る足元の悪い中、集まった会員とそのご家族への感謝から始まりました。次いで、本日の移動例会がホテルウィングでの開催となり、会場設営に尽力した親睦委員長の熊谷会員（体調不良で欠席）への謝辞と早期回復の願いが述べられました。

次に、12月4日から7日にかけてグアムで実施された「クリスマス・ドロップ作戦」への参加し、日本各地から集まったロータリアンと協力して奉仕活動を行う中で、ロータリーの絆を再確認したと述べました。また、同作戦のもう一つの重要な活動として戦没者慰霊碑の前で献花や焼香を行い、全員で「ふるさと」を合唱した経験が、心に深く残る時間であったと振り返りました。

乾杯！



ビンゴ大会



じゃんけん大会



締めのご挨拶



12月18日(木) 第3例会

🔪 会長挨拶

12月の重要行事を振り返り、はじめに11日の「会員家族クリスマス例会」の成功を報告し、親睦委員会と参加家族へ謝意を述べました。

次いで、16日に開催された平田ガバナー補佐の「旭日双光章」及び「法務大臣表彰」の受章祝賀会に触れ、長年の地域社会への貢献が公に認められたことはクラブ最大の誇りであると称えました。

また、来週の例会では、「クリスマスドロップ作戦」の参加報告会を予定しており、現地で直接肌で感じたこと、学んだことを詳しく報告し、世界中の仲間と手を取り合っていく奉仕活動の意義を、ぜひクラブ全体で共有したいと述べました。



会員卓話 緒方康人会員

緒方会員は、現在までに計12名の子供たちを受け入れてきました。卓話は、同会員ご自身の経験に基づいた「里親制度を通じて見る地域の課題と未来への責任」をテーマとする非常に重厚な内容でした。

卓話では、はじめに里親には長期間育てるだけでなく、親の入院や休息のために短期間預かる「レスパイト・ケア」や、虐待等の緊急事態による「一時保護」といった重要な役割があることが説明されました。そして、以下のような実際に預かった子供たちの過酷な現状は、現代社会が抱える深刻な問題を浮き彫りにしていると話しました。



- ネグレクト（育児放棄）：3日間もおむつを替えられず、排泄物で溢れた状態で保護されたケース
- 極度の貧困と孤立：電気やガスが止まった家で数ヶ月過ごし、行政が水道の停止でようやく異変に気づくといった、セーフティネットの限界
- ヤングケアラー：苦小牧市内でも、6歳や4歳の子供が幼い兄弟の面倒を懸命に見ている「子供による介護」のような実態が日常的に発生

また、緒方会員は教育的観点から、人格形成の基礎は6歳までの環境の影響が大きいと強調しました。この時期に受ける言葉がけや愛情が不足し、ある一定のレッドライン（修復困難な境界線）を超えてしまうと、将来的に犯罪や負の連鎖に繋がる可能性が高まります。否定的な言葉（～するな）ではなく、肯定的な言葉（～しよう）で育てることの重要性が、具体的な教育論を交えて語られました。

緒方会員は、「かつての日本にあった“近所の大人たちが子供を見守る”環境が失われ、現在は知らない大人からの声かけが不審者と見なされる時代です。こうした社会の分断が子供たちを追い詰めている」と指摘します。

最後に、地域のリーダーであるロータリー会員に対し、苦小牧の未来を担う子供たちへの理解と支援を呼びかけました。「子供たちの窮状を知り、地域全体で育てる意識を持つことが、犯罪のない健やかな社会への第一歩である」と締め括りました。

🔪 会長挨拶

会長はまず、12月に入ってから続いた多くの行事（11日の家族親睦クリスマス夜間例会、16日の表彰祝賀会など）を通じて、クラブ内に温かく華やかな親睦の輪が広がったことから、これら行事への会員の協力に対し、あらためて深い感謝を述べました。また、上半期は会員の協力によって円滑にクラブ運営ができたことへ感謝を述べるとともに、来年も「共に考え行動する」精神で活発な奉仕活動を続けようと呼びかけました。

最後に、年末年始の健康と、輝かしい新年を迎えられるよう祈念して挨拶を締めくくりました。

会員卓話：クリスマス・ドロップ作戦 参加報告 南沢雄二会員

2025年12月4日から7日にかけてグアムで実施された「クリスマス・ドロップ作戦」は、日本とグアムのロータリアンが米軍と協力し、ミクロネシア近隣諸島の子供たちへ、クリスマスプレゼント（支援物資）を空から届ける国際奉仕活動です。この活動は単なる物資支援に留まらず、過去の戦争の歴史を語り継ぎ、平和への祈りを捧げ、国境を越えた友情を育むことを目的としています。

12月5日、アンダーセン空軍基地にて、物資の梱包作業に従事しました。これは、北海道、茨城、東京、千葉の各クラブ、および現地のグアム・サンライズRCから集まった「チーム・ロータリー」としての活動です。一つひとつの箱に平和への願いを込める作業です。言葉が完全に通じずとも、笑顔と手振りを通じて現地の人々と心が通じ合う、ロータリーらしい交流の素晴らしさを実感しました。

また基地内で、在ハガッニャ日本国総領事館の上田総領事様とも面談しました。その際、本活動の意義を説明するとともに、作戦に参加している航空自衛隊員との交流を要望したところ、夜の親睦例会には自衛隊の第1輸送航空隊から隊長・副隊長に参加いただき、官民一体となった有意義な情報交換が実現しました。

活動のもう一つの重要な柱が、南太平洋戦没者慰霊公苑での慰霊祭です。ここは1944年グアム戦において、日本軍の小畑英良中将が自決した最期の激戦地です。一行は、クラブから寄贈した国旗、線香、蝋燭を供え、静寂の中で「ふるさと」を合唱しました。異国の地で、日本の仲間と共に故郷を想う歌声を響かせた体験は、言葉にできないほど深く心に刻まれました。

これらの活動は「過去を悼み、現在と向き合い、未来へ繋ぐ奉仕活動」であり、今後もこのロータリーの素晴らしい活動を継続していく決意を述べました。

